

TOKYO AUTO SALON 2006 with NAPAC

世界最大級のカスタムカーショー 幕張で開催

去る1月13日(金)～15日(日)の3日間、千葉市美浜区の幕張メッセにおいて、24回目を迎えた「TOKYO AUTO SALON 2006 with NAPAC」が開催された。

1983年の開催当初は“クルマの改造＝違法”という風潮があった。クルマのカスタム文化の隆盛を目指し立ち上げられたショーは、その後道路運送車両法や車検制度が大幅に改定される等、様々な規制緩和によって社会的認知度も高まり、他人との差別化を図るカスタム化が一般的なものとなってきた。

前年234,999人を集めたショーは、今回来場25万人を見込み、幕張メッセ・ホール1～8とイベントホールにて、アフターマーケットパーツメーカー、カスタムショップ、自動車メーカー、自動車関連企業、専門学校など合計341社、3,082出展小間と655台もの出展車両で広い会場を彩った。海外からも多数の取材陣が訪れ、名実ともに世界最大級のカスタムカーショーとなった



カスタムショップからは、鮮やかな色彩と派手なエアロパーツで飾られているクルマが多数出展され、近年の液晶テレビの普及により、車内はあたかもAVルームのようなクルマも増えてきた。

国産自動車メーカー各社では、市販車をメーカーでカスタム化したコンプリートカーを出展、そのままの状態でも販売される車両もあり、販売時期などの問い合わせを受けていた。

パーツ関係では、某レースの映画で使われていたニトロシステム、スーパーチャージャーやターボキット、車高調整式などのサスペンション等が出展され、来場者から技術についての質問を受けている姿も見受けられた。



今回は、自動車検査法人による不正改造防止の啓発活動も行われた。これは公道を走れない競技車両や競技部品であるということを表示していない場合、表示するよう要請する活動で、来場者が知らないまま不正改造を行わないよう啓発する目的で実施された。

自動車整備業界は車が入庫した場合、保安基準適合状態を確認し、必要な点検整備を行う義務があるが、誰もがやりそうなカスタムを行う場合は、どこに注意して改造を行わなければならないかを、整備工場がユーザーに助言していくことが、より身近に感じる存在になることができるのではと感じたショーであった。



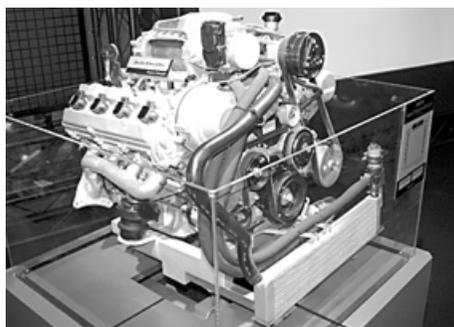
ガルウイングにカスタム化



AVカスタム仕様のスクーター



ロードスターもメーカーカスタム(市販予定)



メーカーチューンのマジェスタのエンジン



燃費情報リアルタイム表示で省エネ走行を支援



トヨタから発売のMARK Xコンセプトモデル



度肝を抜かれるニトロシステム



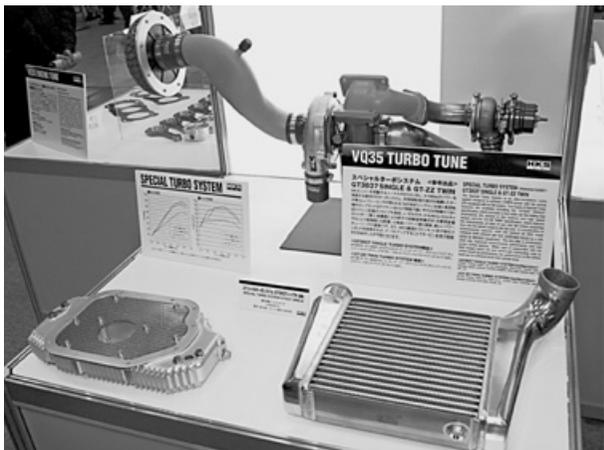
幕張に集結したカスタムカー



専門学校からは、原動機を電気モーターに変えた旧車カローラを出展、ブレーキにはバキュームポンプとタンクを使っていた。



ルームランプをLED化、白色光と青色光をボタンで切り替え



Z用のターボキット(参考出品)



洗浄、保護、つや出しが米軍の技術でこれ一本